

平成2年度 全国曹洞宗青年会総会開催 会則変更承認される!



発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗本行内
発行責任者 伊藤道立
TEL.03-454-54190



▲評議員会

去る五月十一日午後二時から、前田昌範総長代行、御臨席のもとに、全国より会員諸兄の出席を得て、全国曹洞宗青年会総会が開催された。

今回の総会は第八期中間総会であつて前年度総会で検討課題であつた会則の変更が重要議題として審議された。

総会は十二時からの評議員会に引き続き行なわれ、本尊上供の後、平成元年度事業・行事・会計報告に関する議案の承認を行ない、会則変更の報告と承認が無事行なわれた。(会則変更に関しては、後日詳細に報告致します)

その後平成二年度の所信表明が会長からなされ、平成二年度の事業・行事・予算に関する議案も満場一致で承認された。



▲総会



▲総会前の本尊上供

青年僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

目 次

総会特集	1
所信表明・大会案内	2
OB会設立・奈良大会報告	3
総会資料	4

禅の集い中央研修会

総会に引き続き四時より行なわれた「禅の集い中央研修会」は駒沢大学教授鈴木格禅老師により「在家得度について」と題して講演が行なわれ、翌十二日には、芝青年会館にて十時より、第十回禅文化学林をふまえて、「カトリックと禅の接点を求めて」と銘打ち、カトリック京都司教館司教特命の杉野一郎司教の講演が行なわれた。



▲杉野一郎司教の講演



▲講演される鈴木格禅老師

破草鞋

▽「全、単位曹青加盟による全曹青」と云う、第六期以来の懸案達成を第一目標として第八期がスタートして早、折返し点を通過した。「地方には地方の独自性がある。それなりに活動しているのだから加入の必要性は見当らない」と依然として門戸を開かぬところもある。「何、全曹青お前たち暇らしいな。所詮、サークル活動じゃないのか」と揶揄が飛ぶこともある。▽サークルと云う単語には、「円」の意と「環」の意と二つの意味がある。円はたとえて言えば幼稚園児が歌いながら手を結んで輪を作っている形。やることが終わればはらちりになる。環は首輪などにみられるように、たくさんさんの輪(リング)が互い違いに結合している形。だから丈夫でこれに似ている。複数の人たちがそれぞれ精いっぱい自己表現しながら、連結している姿は環のつどい。全曹青の活動は当然円ではなくて環の性質をもたなければならぬ。そうでなければ長続きしないし、存在理由も薄くなる。▽全曹青が掲げる四つの旗印は同好会的スローガンではない。現代に生きる仏教者としての誓願である。その誓願具現のため、全国の青年宗侶と連携を深めて一体となった曹青活動を求めて止まない。未加入団体、未結成地区に強く勧めるところである。▽昔は歩くということが修業でしたから、電車や自動車が出てからこちや、芸らしい芸はなくなつたんじやありませんか。四代目柳屋小さんの言と聞く。現代は文明の利器を抜いては生活はなりたない。しかし、その利器によって現代人は大切なものを失ってしまった。大地をしっかりと踏みしめた地道を越えて歩み寄る求道の旅に出ようではないか。

平成二一年度全曹青總會開催

『宗門最大の教化集団』としての全曹青

会長所信表明より



伊藤道宣 会長

凡そ宗教は、頭然を払うが如き切実な要求に出発し、その高邁な理想を、現実の生活に即して體現するところに、それ自身の本領があると信じます。

この宗教の本質を捉え、全一の仏法を宣揚するため「大衆教化の接点を求めて」限りなき努力を捧げられた先輩講師に対し深い敬意を表するものであります。

今期執行に關しましては、昨年五月、定例總會におきまして、所信表明させて戴きました通り「全曹青、百年の大計の爲、その布石たらん」と活動を展開しておりますが、その第一歩として「全曹青とは」と云う観点から、活動の御理解を頂きたいと存じます。

今回、広報委員会より、全曹青設立十五周年を記念し「古教照心」の立場から曹青通信の復刻縮刷版であります「好堅樹」を発刊致しました。

御覧頂きました通り、そこには設立当初より、先輩講師の組織拡充に対する飽く事なき探求が、説々と書き綴られております。

団体加盟の導入は基より、千僧法要を初めとする魅力ある活動の展開により、全曹青加盟を推進して来たのであります。今期も又、組織委員会は嵌入の爲東奔西走し、広報委員会は、年一回ではあり

ますが、各地諸老宿の御理解を得る爲全寺院に曹青通信を直接郵送し、事業研修委員会は「大会講師目録」を、未加盟団体に迄配布して、その活動の協力を求めて参りました。

しかし、現在僧籍を持つ十八才から四十才迄の洞門宗侶は七千名を越え、今回作成致しました第二版会員名簿に記載された会員は三千七百余名であります。

更に、未加盟十団体の会員を含めても四千五百名、残る二千五百名以上の該当宗侶は、全、単位曹青加盟がなされても猶会員名簿に記載されない青年宗侶であります。

確かに「個人の意志有る者の集合体」と云うのが組織の理想であり、活動の基本かも知れません。会員を増やせばよいと云う問題でもありません。

しかし宗門寺院の三割が後継者に悩んでいると云われる今日、この二千五百名が今、最も教化活動に不安を抱き、法灯の継承を悩んでいる青年宗侶ではないでしょうか。

この問題打開の爲、執行部は、宗門行政による、曹青入会の制度化を考えました。

言う迄もなく全曹青は、単位曹青の絶大なる御協力の下に成立している組織であります。故に、各地の隠れた四十才迄の青年宗侶を宗門行政により発掘し、宗務所費と共に会費を集め、各単位曹青の充実を図り、以て全曹青に加盟して頂くという事が、全曹青組織拡充の基本であり、最大の急務であると考えたのであります。

全曹青とは、恵まれた者の自己満足の爲にあつてはならない。

全曹青とは、教化集団としての活動を

通じ、洞門宗侶としての、自覚と誇りを身に付ける場ではなくてはならないという観点からであります。

しかしながら、全曹青内外の、一部の誤った解釈から、二年の任期内の宗制成文化を断念せざるを得ない状態と成りました。その誤った解釈とは「全曹青は、宗門の外郭団体である」と云う考え方でありました。

年間一千万の助成を受け、十五年の活動の歴史を誇り、三千七百の僧籍を持った会員からなる、宗門最大の教化集団が「宗門の外郭団体」とすれば、宗門を構成する団体とは、一体何をさすのでありましょうや。

おりからの会則修正に伴い、執行部は会則における全曹青の確固たる位置づけを試みました。

全曹青とは、曹洞宗青少年教化規定にもつき、すべての手続きを踏まえた唯一の青年会組織であり、宗門行政の構成団体であります。

御参集の会員諸兄、未加盟団体に法友あらば、又、地元曹青に未入会の禅兄あらば、声を大にして訴えて頂きたい。曹青入会は義務ではなく、青年宗侶に与えられた最大の権利である。

平成二年度、全曹青はこの与えられた権利を有効に活かす爲に、全国リーフレットを計画中であります。

御承知の通り、本庁助成金の関係上、全曹青予算の積立は出来ません。ならば全曹青の永い継続事業の資金をどうするか。

このリーフレット計画は、企業からの寄付を集めるのではなく、北海道と鹿児島から同時に出版し、自らの「行」としての託鉢で得た浄財を東京に集め、そのつ

ど、丹羽禅師の御弟子であり、我が全曹青のOBでもあるウイジタ師に託し、十年、二十年後、仏教の原点を色濃く残すスリランカの地に、全曹青独自の研修道場を持つと云う計画であります。

この壮大なロマンと、そのための託鉢に参加出来たと云う法悦を、一人でも多くの法友と共に、分かち合おうではありませんか。

今一つ、全国ソフトボール大会を、東京ドームにおいて開催致したいと思っております。

今期役員の中にも、曹青入会のきっかけは、ソフトボールに駆りだされてからと云う者がおります。

軽い気持ちでソフトボールに参加し、その後、曹青に入会した一会員が、数年後、本役員として全曹青のために活躍してくれているのであります。

「大衆教化の接点を求めて」は全曹青の根本理念であります。

しかし、未加入青年宗侶との接点を求める事も、全曹青として大切な活動の一つではないでしょうか。

更に、平成二年度事業計画と致しまして、禅文化学林の実施と、出版事業を挙げなければなりません。

今回の禅文化学林は、これまでの「仏教の原点を知る」と云う立場から一歩進め「他を知り、己を知る」と云う立場に立ち、キリスト教の本拠地パチカンを選び、研修を計画致しました。

奮って御参加頂きますよう、御願ひ申し上げます。

次に、出版事業であります「四字禅語」に続き、仮題ではあります「やざしい禅、全五巻」を出版致します。この出版物は、四十歳迄の青年学究者の執筆により、大学の講義資料としても耐え得る内容のものをめざし、この収益をもつて、聊かも本庁助成金とのバランスをとりたいと考えております。以上、取り急ぎ元年度事業報告並びに二年度執行に当たり、所信を述べさせて頂きました。

九州長崎大会

日時 六月八日～九日

場所 佐世保コミュニティセンター
サンホテル飯田

連絡先
佐世保市大宮町30の27 護国寺内
九州曹青大会事務局
電話 ○九五六(三二) 一七八八

北海道北見大会

日時 六月七日～八日

場所 北見市 高台寺
北見市ホテル東急イン

連絡先
網走郡津別町幸町62の9 禅昌寺内
北海道曹青大会事務局
電話 ○一五二七(六) 二六一三

青年僧の心意気を忘れず

曹青OB会

全曹青

龍象会 発足

去る五月十一日、全国曹洞宗青年会の定時総会に並行してOB会発足総会が開催された。この会は全曹青の歴史を振り返る中で是非とも必要として昨年十五年記念集会以現執行部よりOB諸兄にアピールし、今回発足となったものである。

（二）報告

曹青活動は地域差もあるがおおむね年齢制限が設けられている。しかし、愛宗護法の活動に制限があるわけではなく、曹青が「正法興隆」を掲げて活動するならば年齢制限を設けることすら疑問となる。とはいえ、青年僧侶の真摯な活動を誘引するには新陳代謝こそ必要である。そして、曹青活動を終えた者も、情熱は忘れることなく宗門僧侶の誇りを持って邁進し、現役諸兄の活動を見守り、支援し、必要な助言をしてこそ真の曹青OBといえる。

この会は全曹青設立以来の懸案となっていたが、十五周年を期して結成となり、今回の設立となった。

今回の開催は「曹青通信」（宗報を含む）で案内され、各地の諸兄に直接発送されてはいない。したがって参加人数も二十名足らずと、いささかさみしい会議ではあったが、なつかしい話に終わらず互いの情熱を確認し、現役の活動支援を確認する内容に終始した。

会議は全曹青初代会長の門脇元師よりのメッセージ紹介後、五代桜井会長を議長に選び発足に向け「目的」確認から審議を重ねた。

を述べたものは口だしすべきでない」との意見も出され、OBのあり方も議論の対象となったが、支援の体制づくりは参加者の賛同するところであった。

現今、支援といえば日本の経済界に似て「支援もするが口も出す団体」が多い。本会は青年僧侶の気概を忘れぬ者の会であることを確認し、「圧力団体となることなく」「思い出しにふけることなく」親睦を旨として青年僧の真摯な活動を支援せんとして発足は決まった。

総会は隔年となり、来年の全曹青総会に合わせて開催となります。今後入会のご案内等をいたしてまいりますので多数のOB諸兄が集い、龍象にふさわしい会となりましますようご協力願います。入会等詳細は別にのご案内いたします。入会等まずは設立のご報告まで。

（龍象会事務局）

来年の総会に向けて

振り返れば活動が理解されず悶々と過ごす中でOBから激励の言葉をもらい奮闘したことも二度や三度ではない。現役諸兄、傍観しているようでもOBはたえず動向に気を配りいざ鎌倉に備えている。そんな先達に遭遇した感激を今度は皆さんに味わっていただきたい。

会の名称は名に恥じないことを肝に銘じて「全曹青・龍象会」となり、会長に門脇元師を選び、当面は歴代の会長経験者を役員として管区より理事を選出し運営することになった。

全曹青主幹

全日本仏教青年会奈良大会 報告

去る四月二十六日快晴の東大寺にて、全曹青主幹による全日本仏教青年会奈良大会が開催された。十時半の受付に始まり、十一時半より南大門より中門を経て大仏殿に至る行道が行なわれ、大仏殿内にて記念法要とタイムカプセル前にて法要が厳修され全曹青第七期会長神野哲州師が祈願文を奉読して法要を閉じた。

一同五十年先、百年先の千僧法要を期待して奈良を後にした。



▲誓願文を奉読する神野哲州師

祈願文

大恩教主釈迦牟尼世尊のみ教えは幾多の苦難を越えて東方の地に伝えられ、爾来一四五〇年。仏法は信仰を抱く多くの民衆に守られてこの地に根づき、法灯を掲げる多くの祖師によって画かれた紋業は蔭影をなして私どもの心を潤してまいりました。

近年、社会は大きく変貌を重ね、その激流はともすれば仏法を忘れるかの如き風潮につながり、法灯を掲げるものも自らの範疇に固執するかの如き様を呈するに至りました。

しかしながら、釈尊の時代も祖師の時代も平穩に過ぎ去ったことは一度としてなく、今次を法難の如く嘆くは青年僧の言動にふさわしいことではありません。釈尊の遺分にすぎることなく大衆の中にあってともに最善を尽くすことこそ法係の使命であり青年僧の本分であります。

仏歴二五五四年、昭和六十三年、西暦一九八八年の四月二十六日、全国の青年僧侶は仏法興隆の大旗を掲げ、白らの帰趨の地と法友の交流を求めてこの東大寺に集いました。その数僧侶をして一七〇

○余名は近年未曾有のことであり、毘盧舎那仏真前を埋め尽くした交歓は仏法を依り処とするもの喜びに満ち溢れていたものであります。

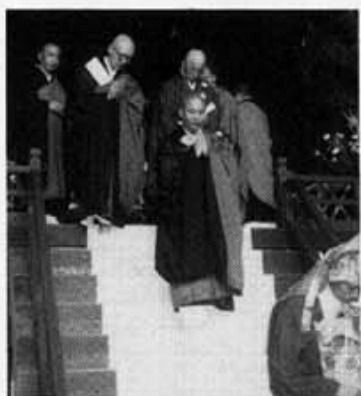
更に古を追慕するに留まらずこの結果とこの情熱を大衆の期待とともに二〇四三年、仏法伝来一千五百年の青年僧に伝うべくタイムカプセルに封印いたすことにしました。

もとより、今日の私たちの姿勢によって五十年後の法係の姿があることは申すまでもないことであります。今日、改めて真前について仏法興隆の願いをなし大道を明示して大衆とともに更に精進いたすことを誓うものであります。

冀い願わくば仏法伝来一千五百年の歳、仏祖の加護を戴き、法孫の青年僧が再び奈良の大道を、仏法の大道を、万感の思いをもって大歩されんことを。

伏して願わくば 照鑑 慈悲 容納

維時 平成二年 四月二十六日
曹洞宗青年会
神野哲州



▲大仏殿にて法要



▲南大門より中門へ行道

各地の曹青も支援

目的については会員相互の親睦を第一として全曹青に止まらず、各地の曹青活動も必要によって支援することとなった。

すでに全曹青は四千余名の会員をかかえ、仏教界最大にしてしかも実働の会に成長している。各地の曹青にしても充実した活動が報告されている現在、支援とおこがましいが、支援団体と理解者は多いに越したことはない。今回も「活動

<p>全曹青・龍象会 会則</p> <p>第1条 (名称) 本会は全曹青・龍象会と称する。</p> <p>第2条 (目的) 本会は会員相互の親睦と全国曹洞宗青年会及び各地の曹洞宗青年会の真摯な活動を支援し、もって宗門興隆に寄与することを目的とする。</p> <p>第3条 (構成) 本会は前条の目的に賛同する曹洞宗青年会経験者を以て構成する。但し経験なくとも会員の推薦があれば入会できる。</p> <p>第4条 (会員) 青年宗侶の活動に理解と協力を惜しむことなく、かつ青年宗侶の心意気を持つ愛宗護法の宗侶とする。</p> <p>第5条 (事業) 本会は次の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全国曹洞宗青年会の活動支援のための事業。 2. 各地の曹洞宗青年会活動支援のための事業。 3. 会員相互の親睦のための事業。 4. その他会員より提案され総会で承認された事業。 <p>第6条 (経理及び会費) 1. 本会の経費は会費及び寄付金をもって充てる。 2. 会費は別に定める。 3. 本会計は役員任期の4月1日より翌年度の3月31日までの2年間のする。但し、監査は毎年度末に行うものとする。</p> <p>第7条 (会議) 1. 定例総会 隔年で開催し次の事項を審議する。 1. 事業 2年間に亘る事業を審議する。 2. 予算決算 2年間に亘る予算決算を審議する。 3. 会費</p>	<p>4. 役員 5. その他</p> <p>2. 臨時総会 事務局の必要により招集する。</p> <p>3. 役員会 1. 定例役員会 年1度開催する。 2. その他 事務局の必要により招集する。</p> <p>第8条 (役員) 本会に次の役員をおく</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会長 1名 本会を代表する。 2. 副会長 3名 代表を補佐する。 3. 理事 9名 各管区ごとに1名。 4. 評議員 若干名 会員中より理事の推薦による。 5. 事務局 1. 事務局長 1名 2. 庶務 3名 (内 2名は全曹青より派遣を受けらる) 3. 会計 1名 6. 会計監査 2名 7. 顧問 若干名 総会の推薦による。 <p>第9条 (事務局) 本会の事務一切を処理するために事務局を置く。事務局員は会長が任命する。</p> <p>第10条 (役員任期) 役員任期は全国曹洞宗青年会の役員任期に準ずる。</p> <p>第11条 (会則の変更) 総会にて行うことが出来る。</p> <p>補則 本会則は平成2年5月11日より発足する。</p>
---	---

—ウィジタ師帰国について—

全曹青主幹第八回禅文化学林の主任講師を務められ、全曹青とも深い因縁を結ばれたスリランカ僧、アヤガマ・ウィジタ師が、六月十四日、母国スリランカに帰国されることになりました。

師は日本に来て十四年、大本山永平寺貫首丹羽芳禪師に就いて得度され、安居修行されました。帰国後は、小乗仏教国における曹洞禅の宣揚に邁進し、日本スリランカの仏教交流に寄与することを最大の願いとされ、布教の拠点となる日本式寺院の建立を目指し、ヌワラエリヤ市(スリランカの中央)に七万坪の敷地を確保されておられます。

師の帰国にあたり、益々の御活躍をお祈りしたく送別会を準備致しました。

多数の御出席をお願い致します。

日時 六月七日 午後五時集合

会場 マイホテル竜宮

静岡市伝馬町(駅より徒歩五分)
連絡先 福島市大森本町二十 円通寺内
吉岡棟憲

☎〇二四五(四六)六四〇一

